

現状と課題

子どもたちを取り巻く社会環境や教育環境の変化に伴い、多くの知識を教え込むことになりがちであった教育から、基礎的な生活習慣、社会におけるモラルやマナー、忍耐力や善悪の判断などを身に付ける人材育成が求められています。

また、学校は「読み・書き・計算」などの基礎・基本を学び「確かな学力」の育成を図る場ですが、学習意欲が必ずしも高くないこと、学習習慣が十分に身に付いていないことから、子どもの学力の向上に対する期待が高まっています。

一方、障がいのある子どもたちの教育については、子ども達の自立や社会参加に向け、一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う「特別支援教育」の推進と、共に学ぶ教育の実現が求められています。

学校施設は、子どもたちの学習及び生活の場として、良好な環境条件を確保するとともに、学校施設についても、耐震化の促進及び老朽化や教育環境の変化に応じた対応が重要となってきており、端野中学校等の改築や既存校舎の大規模改修など施設・設備の充実に努めます。

主要施策

1

小学校の外国語活動や中学校の英語の授業に英語指導助手(AET)を派遣し、国際理解教育の充実に努めます。

2

障がいを持つ児童生徒の通学利便の向上と保護者負担軽減を図るため、通学費補助等の支援制度の実施に努めます。

3

読書活動を推進し、豊かな人間性や感性・読解力などを育てることができるよう、学校図書等の充実に努めます。

4

学習内容の定着を図るため、家庭と連携し、家庭学習習慣の推進に努めます。

5

わかる授業の実施に向けて、開かれた研修の充実に努めるとともに、教育活動支援講師の配置による少人数指導などに努めます。

6

特別支援教育では、保健・医療・福祉分野などの関係機関との連携、協力体制を強化し、きめ細かな指導や支援など特別支援教育の充実に努めます。

7

小学校3・4年生の社会科副読本の活用を図るとともに、地域の自然や歴史を生かした体験学習などを通して、地域に根ざした特色ある学校づくりを推進します。

8

障がいに応じた指導が図れるよう、障がいの早期発見・指導に努め、就学指導委員会による障がいのある児童生徒等の就学の適正を図るとともに、教育環境の整備・充実などを図ります。

9

教職員の資質と実践的指導力の向上を図るため、網走地方教育研修センター、道立教育研究所、道立理科教育センターなどの各種研修会への積極的参加に努めます。

10

働くことの意義を知るとともに、将来の仕事について確かな目標を持てるよう、職場体験など、キャリア教育の充実に努めます。

11

地域住民の生涯学習やコミュニティ活動の拠点、災害時の緊急避難場所にもなる小中学校の耐震診断を実施し、計画的に耐震性の向上が図られるよう努めます。

12

障がい児が地域の学校で学ぶことができるようユニバーサルデザインの学校づくりを進めます。

13

教育環境の充実に図るため、設備・教育機器などの計画的な更新を図ります。

14

学校と家庭、地域の連携強化を図るとともに学校評議員制度の活用などにより開かれた魅力ある学校づくりを促進します。



15

「北見市学校の安全・安心推進協議会」などの関係機関と連携を図り、子どもたちが安全に登下校できるよう通学路や学校の安全管理に努めます。

16

地域住民が運営主体となり瑞穂小中学校において実施している山村留学制度を支援します。

17

就学が困難な児童生徒に対して、必要な援助を行います。

18

地域ぐるみで学校運営を支援する「学校支援地域本部事業」に取り組み、学校の求めと地域の力を結集して、より効果的な学校支援を行い、教育の充実に図ります。

目
標

指 標 名	現状値(H19)	目標値(H25)
耐震化率	46.1 %	76.6 %

現状と課題

高等学校教育においては、社会の要請に応えた教育の多様化・個性化が図られ、社会規範を身に付けた健全な生徒を育成するとともに、個性ある教育、希望進路の実現など多様なニーズに応えられる教育が求められています。

さらには、豊かな人間性や社会性を育むため、本市の歴史・文化・自然など豊かな地域資源を生かした自然体験活動や家庭、地域などと連携した各種ボランティア活動を通じ生徒の自主性や主体性を高め、次世代を担う人づくりを進める必要があります。

また、在学中におけるキャリア教育は、生徒が主体的に適切な職業を選択・決定する能力やしっかりした勤労観・職業観を身に付ける上で大きな効果があり、学生の学習意欲の喚起・高い職業意識の育成などの意義を有するものであることから、インターンシップなどの積極的な推進を図る必要があります。

大学教育においては、学生の多様化が進む中で、より一層学生の主体的学習を促し、学生の学力向上を図ることが求められており、国においては、国公私立大学を通じた競争的環境の下で、特色ある優れた教育プロジェクトを選定し、大学教育の改革への財政支援などを行っております。

このような状況の下、北見工業大学や日本赤十字北海道看護大学では、高度な専門家・研究者の育成を目指し、教育内容や学習環境の整備、学術研究活動の充実に努めることにより、優秀な人材を輩出するとともに、学術研究成果を社会に還元するなど、地域の産業や市民生活の向上が図れるよう期待されております。

また、市民講座の開催や講師派遣あるいは施設の一般開放など、大学の門戸を開き生涯学習機関としての機能を社会一般に提供しておりますが、更に、高度化・多様化する学習ニーズに適切に対応していくことが期待されております。

主要施策

1

地元大学の学生数を確保し、高等教育機関としての機能の維持・充実を図るため、市内の大学に在籍する学生に対し奨学金の貸し付けを行います。

2

私立高等学校の健全な発展と父母負担の軽減を図るため、私立高等学校振興補助金による支援を継続します。

3

高等学校に在学し、経済的理由により就学困難な生徒に対し、奨学金を支給するとともに、大学・短大及び専修学校の専門課程等に入学する際、入学準備金の貸し付けを行います。

4

地域住民と連携し、地域に根ざした学校づくりと学校の間口確保、存続の取り組みに努めます。